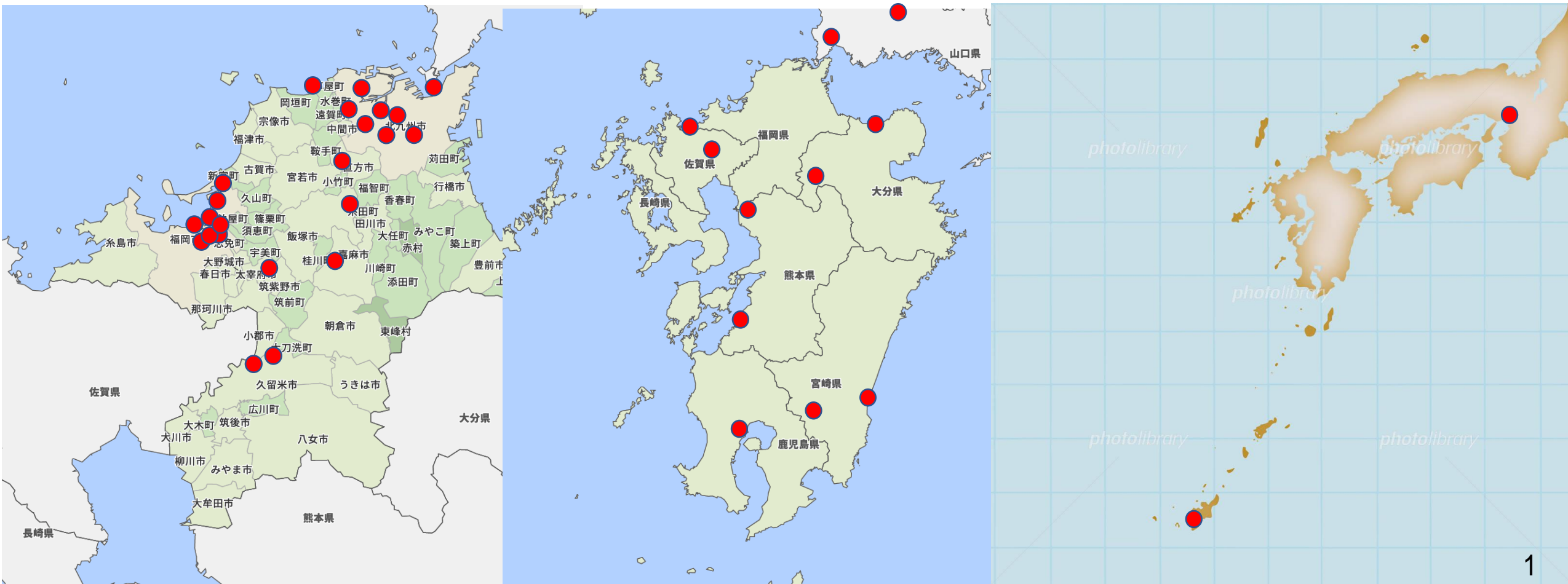


# 九州大学 第一外科における 人材維持・確保のための取り組み

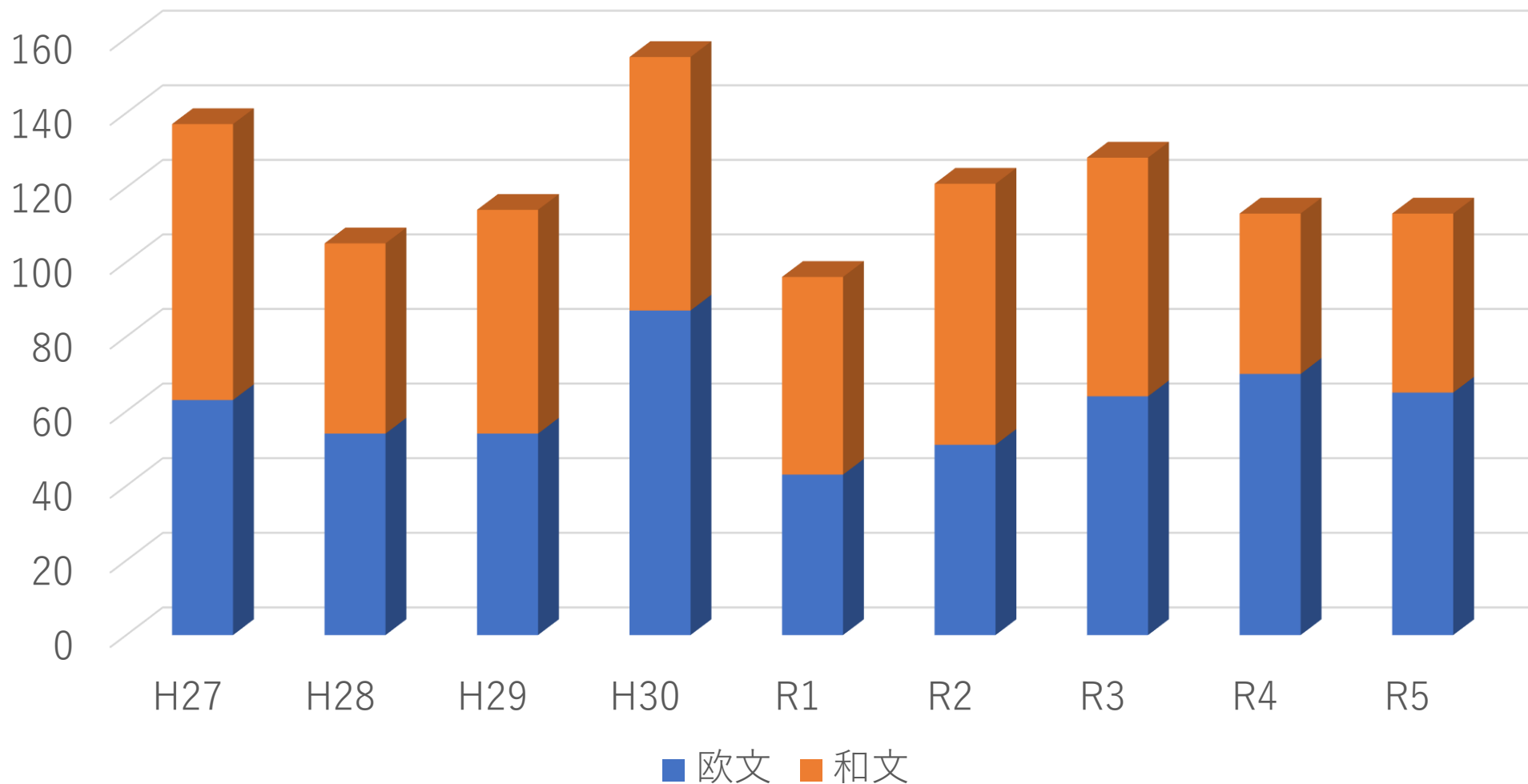
九州大学第一外科 医局長 水内祐介

# 九州大学第一外科 1904年開講 今年開講120年

<九州大学第一外科関連病院分布図>



# 九州大学第一外科における論文業績の推移



# 新入局勧誘

- 各関連病院に勧誘の担当者を置いてそれぞれに勧誘してもらう
  - とにかく外科のブラックなイメージを変えてもらいたい。
  - 研修などで体験して合わないのであれば外科の選択は難しい
  - 大学に見学に来てもらい、実際の雰囲気を見てもらう。
  - 他職種と比べると遅れているが急速に働き方の改革は進んでいる。（遅くまで病院にいることが美徳、などは廃れている）
  - とにかく強引な手法は取らない。
- 
- 必要があれば北でも南でも医局長が飛んで行く。

# アンケート調査

対象：卒後3－7年目外科医

目的：レジデント世代のニーズを聞き取ることで外科へのリクルートに活かす

調査期間：2024年3月28日～4月8日調査施行

調査方法：匿名でGoogleフォームでの回答  
4問

47名中41名が回答

# アンケート調査

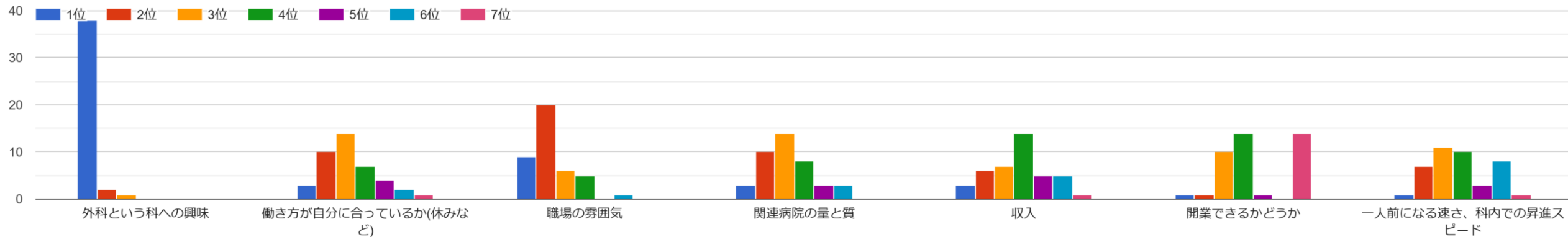
◆あなたが外科医になろうと思った時、以下の事項はどのくらいの比重がありましたか？

1. 外科という科への興味
2. 働き方が自分に合っているか(休みなど)
3. 職場の雰囲気
4. 関連病院の量と質
5. 収入
6. 開業できるかどうか
7. 一人前になる速さ、科内での昇進スピード

# アンケート調査

◆あなたが外科医になろうと思った時、以下の事項はどのくらいの比重がありましたか？

あなたが外科医になろうと思った時、以下の事項はどのくらいの比重がありましたか？



# アンケート調査

◆あなたが外科医になろうと思った時、以下の事項はどのくらいの比重がありましたか？

- ✓「外科への興味」が圧倒的1位(1位32名中27名)
- ✓「職場の雰囲気」が2位(1位3名、2位18名)
- ✓「働き方」「関連病院」が3位を争って、そのすぐ下に「収入」。

外科医を志すきっかけは外科手術への純粋な興味から



# アンケート調査

◆外科の中で特にどのようなことに興味があるか？(複数回答可)

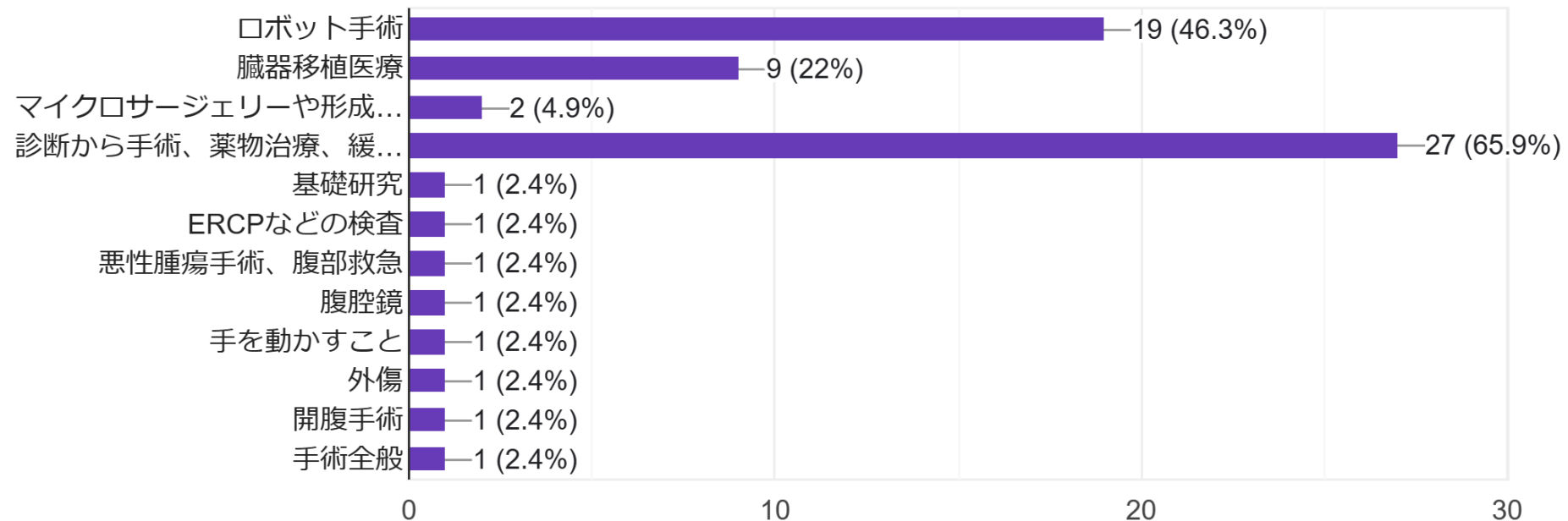
1. ロボット手術
2. 臓器移植医療
3. マイクロサージェリーや形成手術など
4. 診断から手術、薬物治療、緩和ケアまでの一貫した医療
5. 基礎研究

# アンケート調査

## ◆外科の中で特にどのようなことに興味があるか？(複数回答可)

外科の中で特にどのようなことに興味があるか？

41件の回答



# アンケート調査

◆外科の中で特にどのようなことに興味があるか？(複数回答可)

- ✓ 「一貫した医療」が27人(66%)
- ✓ 「ロボット手術」が19人(53%)
- ✓ 「臓器移植」が9人(22%)
- ✓ 「マイクロサージェリー」が2名(5%)

やはりロボットが人気  
診断から治療、緩和ケアまでの一貫した治療を  
魅力ととらえているのは手術手技に重きを置いて  
いるとの考えからは意外な結果

# アンケート調査

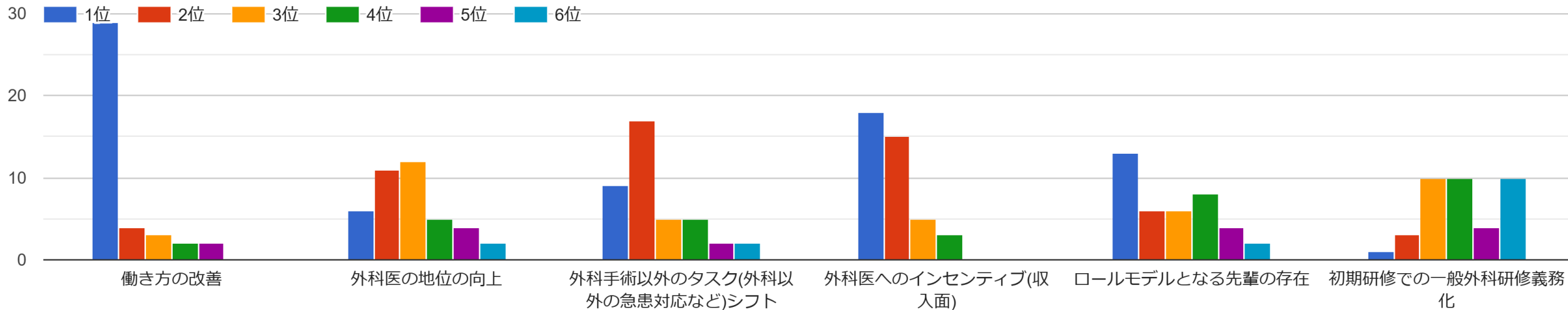
◆このようなことをすれば外科医は増えるのではないかということは？

1. 働き方の改善
2. 外科医の地位の向上
3. 外科手術以外のタスク(外科以外の急患対応など)シフト
4. 外科医へのインセンティブ(収入面)
5. ロールモデルとなる先輩の存在
6. 初期研修での一般外科研修義務化

# アンケート調査

◆このようなことをすれば外科医は増えるのではないかと  
いうことは？

このようなことをすれば外科医は増えるのではないかと  
いうことは？



# アンケート調査

◆このようなことをすれば外科医は増えるのではないかということは？

- ✓「働き方」が1位29名、2位3名
- ✓「インセンティブ」が1位18名、2位5名
- ✓「タスクシフト」が1位9名、2位17名
- ✓「ロールモデル」が1位13名、2位6名
- ✓「地位向上」、「外科必修化」は票伸びず

外科医の地位向上や外科必修化は票が集まらなかった。  
他の選択肢の魅力が高かったのが原因？

# アンケート調査

◆このようなことをすれば外科医は増えるのではないかということは？

## 自由回答

- 研修医での執刀機会の増加
- 身近な先生・先輩に憧れて外科医になりました。
- 全国のハイボリューム施設との積極的な交流、国内留学の推進
- 外科は修練→上達が他の科と比較して分かりやすく、働くモチベーションを保ちやすいため、外科を選択してよかったと感じています。
- 外科医は極論を言えば、手術が面白いが、面白くないかだと思えます。  
①手術のやり甲斐がある②それ以外の仕事を極力減らす が重要だと考えます。

# アンケート調査

◆もう一度診療科を選び直せるとしたら外科を選ぶ？

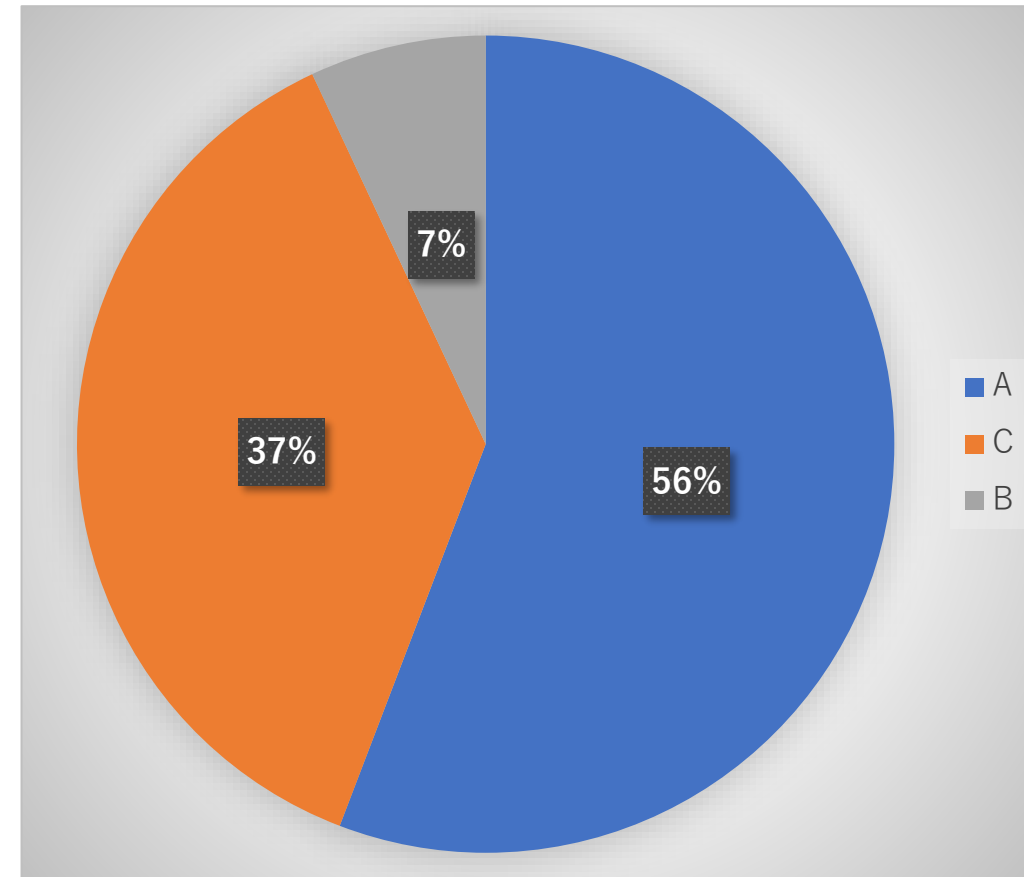
- A) 外科一択！
- B) 他の診療科に行きたい
- C) 他の診療科も気になる



# アンケート調査

◆もう一度診療科を選び直せるとしたら外科を選ぶ？

- A) 外科一択！
- B) 他の診療科に行きたい
- C) 他の診療科も気になる



# サステナブルな外科医へ

- アンケートで3分の1以上が他の診療科も気になっている。
- 医局の庶務を預かるものとして衝撃的な結果
- 近年の傾向 40代から50歳くらいの中堅外科医が外科医を辞めている → 訪問診療などスペシャリティを変更
- 外科医への様々な重責(訴訟リスクなど)に耐えられない。
- 重責のある仕事である外科医はいい医療をしているという確固たる自負がないと続けられない。
- 診療科単位では周囲に評価される診療をしていることが重要  
(病院職員やその家族が手術が必要な時に任せてもらえるか)

# 第一外科内での働き方改革

- 主治医制からチーム制へ
- 夜間・休日の回診や緊急手術 当番制
- 早朝や夜間などのカンファレンスの中止(時間内へ)
- 診断書やルート確保、処方薬や注射などを取りに行くなどの業務のタスクシフト
- レジデントの仕事のスタッフへのタスクシフト(手術後の標本整理など)
- 最も大事なものは残業することを美徳とする意識の改革

# 終わりに

- 新人リクルートも重要だが外科医が「外科医」を持続することが外科のマンパワー維持にはさらに重要
- 外科医という仕事が正当に評価されることが重要
- 他のマイナー外科との待遇などを含めた思い切った差別化が外科医増加には必須なのではないか？

→今後各年代(30代、40代、50代)の外科医にもアンケートを予定。